

實際指導

座談会

出席者

司會津守直

及川ふみ 村井トミ
村田修子 堀合文子

司会 この夏、お茶の水の付属幼稚園の先生

さんを保育して、こういう場合はこうすればいいのだということを実地に指導されたということを聞き、私はたいへん興味をもちました。環境的にも部屋の点からもここ の幼稚園とは違ったところでお子さんを保育したのでいろいろ興味深いお話をあると 思います。及川先生、まず、依頼をうけた 頃のことから。

及川 北海道厅と北海道私立幼稚園研究会と
いう会の共催で、北海道全道にわたり一園
から一人ずつ参加して研修会を開きたい

及川 ふみ 津守 真 村田 修子 村井トミ 堀合文子

が、このときに北海道の子どもに、東京でやるような実際指導をしてほしい、という依頼を受けました。これは、こちらから行く先生には御苦勞様なことなので、期待にそえるかどうかわからぬし、たいへんなことだと思いましたが、この先生三人に無理にお願いしたようなわけでございましました。三日間にわたる指導の内容については三人で相談してということにしていただきましたから、第一日村井先生、第二日村田先生、そして次が堀合先生というように話しあってきめたと思います。

先方では、公開の二日前から現場の先生に来ていただき、子どもとなじみになる

ところが、幼稚園教諭の免許状取得のための学科をみると、児童の身体に関するものが少なく、指導要領などにおいても、極めて簡単に扱っているのは理解に苦しむものである。個々の幼稚園についてみると、保健の最も基本的な日光に当てるとか、キレイな空気を呼吸させることなど、あまり重要視されていらない傾きがあり、本道のように長い冬を迎えないればならない土地では、雪と温度と日光、空氣というものが、健康上重要な関係をもつことは当然であるし、保健医も児童五五%にクル病の病いがあるといつてゐる。その他食物、伝染病などかなり大きな問題が残されているのではないだろうか。この点をもると強調すべきものと考えたのである。

(北海道私学宗教係長)

ようにして、ということでしたが、それで

えられたことを……。

は滞在時間が長くなるのでお断りしました。そして一日前に子どもと会うようにお願いしたのですが、その日は集った先生がたの座談会になってしまって、子どもとは当日はじめて会いました。

何才のお子さんで何人、ということは前日お話をあつたのでしょうか？

堀合　はい。五才児が二組あって、これを一日に一人で保育するということですから、二組を一つにした四十七人でした。

及川　割合に組同志の親しみがついていたようでしたね。二組を一しょにしましたから組の人数が多いという感じがしました。参会者の側では、この組はリズム、こちらは製作というふうに展開したい気持のようでしたが、参観者が移動する心配があつたので、一日に一クラスということになりました。

司会　依頼を受けて行く前に、皆さんどういうことを考えられたか、計画をたてるのに、どういうところに重点をおいたか、お話を伺いたいのですが。まずごく最初に考

村田　“たいへんだ”困ったとは考えました

が、先立つておこなわれた東京の講習会で忙しかつたので、汽車の中で準備しようとしたことにしたのです。ですが、ひまがなくて、ついに前の日に計画をたてるようになってしまった。

及川　ひまがなかつたから実現したので、ひまがあつたらお断りしたところですね。

村田　幼稚園を観る方が観やすく、わかりやすく、そしてやりやすくということから

ら、音楽リズムと幼児体育にからめたお詫合い、絵画製作を中心にしていました。そして一齊に扱う方が無難で、どこでも同じにやっているだろうということから、リズムを一番最初に村井先生にしていただきました。自由遊びは他の地方でどういう生活をしているかお話を伺つただけではわからないので、その時の状態で適当にするということにしておきました。

司会　何時からはじめたのですか？

及川　九時から開会式がありました。子どもは九時までに登園することになっていたのですが、大体八時三十分頃から集つてしまつて、一組の部屋に二つの級の子どもと父兄とがぎっしりと入つて待つているような氣の毒な様子でした。ですからはじめに媛くたくさん自由遊びの時間をとりたいと思いましたが、やはり時間の都合で、二十分ほど自由遊びをしただけでした。

司会　実際に保育をした場所はどんなところですか。

ず、汽車の中で、こういうものをしましょ

うか、ということがきまって、そして誰が

しようと決つたのが前の晩宿

舎だつたのです。会場の都合もあるから、音楽リズムなら遊具も要らないだろうといつて音楽リズムを私がひきうけました。

及川　用意が出来ていたら緊張しすぎて、かえつてだめでしたでしょうね。私たち心配して幼稚園へ行つてみたら、子どもはもうきていましたよ。

司会　何時からはじめたのですか？

村井　九時から開会式がありました。子ども

は九時までに登園することになっていたの

ですが、大体八時三十分頃から集つてしま

つて、一組の部屋に二つの級の子どもと父兄とがぎっしりと入つて待つているような氣の毒な様子でした。ですからはじめに媛くたくさん自由遊びの時間をとりたいと思いましたが、やはり時間の都合で、二十分ほど自由遊びをしただけでした。

司会　実際に保育をした場所はどんなところですか。

第一日 リズム

(2) 自由な表現

蝶とか飛行機など一つ一つのものの自由な表現

一人ひとりの子どもの性格もしらず、日頃の指導の形態や方法もよくわからず、突然然行つてするのであるから、子どもが動いてくれるかどうか問題であったが、とにかく次の様なねらいで遊びの計画をたてた。

○ねらい

教師から与えられた表現をするのではなく、自分の思つたままを自由に表現する。
・自由な体形で、興味をもって、のびのびと活動する。・リズムに合せて気持よく動く。

○計画

(1) 基礎動作を中心としたもの
・自由に歩くこと、走ること、とぶことを十分にさせる。(方法はいろいろ変化をつけて興味をもたせるように)
・音の高低をききわけて体にうつす。そうと歩いたり、元気に歩いたり、大きくなったり、小さくなったりなど)

れでも後半は大分上手に自由に動くということができるようになつた。その場の状態

(3) 遠足ごっこという一つのテーマのもとにあそぶ。(遠足ならどこの子どもも理解

できると思つたので)まず話し合いをし、子どもの経験を織り込んで、いってあそびとする。(電車にのつたり、坂をのぼったり、つみ草をしたり、くびかざりをつくり、つたつたり、ブランコやスベリ台の遊具であそんだり、小鳥や兔を見にいったり池でボートであそんだりといふようなこと)

ただ一つ一つの動作にもつと発展性がほしかつた。例えば小鳥にしても、飛んでいるほかにも鳴いたり話したりしている小鳥もあるし、餌をたべている小鳥もいましたよといふように助言を与えてみたが、急には充分な発展は得られなかつた。しかしこれも今後のやり方次第と思われる。おもしろいことに、乱暴で困るといわれたお子さんが、むしろ子どもらしいのびのびとしたいい表現をしてくれたことだつた。早速とりあげてほめ誘導した。とにかく一応たのくなつてしまふ。友だちのいない方へ行きしんで、一生懸命してくれたことをうれしましょうなど言ひながらしてゐる中に、そく思つてゐる。

(村井)

村井 講堂の中央だけを園児のためにあけ

て、その周囲に参会者が陣どるようにつくつてありましたが、四十八人の園児数には、少ししかあけられていませんでした。

及川 細長い部屋でしたね。人数は三百人近

い参会者にお母さんが加わっていました。

村井 受持の先生にふだんの様子を伺いまし

たところ、おゆうぎはしたことがなく、保育室で勤めることからして、はなは、七、八歳ご

とでした。ですから、お子さんが突然棒立

ちになつてしまはないだろうか、例えば好

きな蝶々になりましょうといふとき動いて

くれるたゞうかなどと心配しました。それで程度はやさしく子どもの経験や夢に縁

のあるものを材料にいたしました。子ども

たちの中にはまとまらないとか、てれくさ

くて騒いでしまうという子どももいましたが、予想通り、喜んで動いてくれました。

が
子恋より喜んで書いてくれました

てくるのではないかと思われました。

司会 時間は?

村井 終つたのが十二時十分前頃でしたか

司会 それでは二日目のお話を願います。

と思いました。私はボーリング遊びをしようと思つていたので、ボールのところでグルー

ら、一時間半ぐらいでした。最初の予定時間は二時間ということになつておりましたが、司会 音楽リズムだけでおしまいにしたのですね。そのときおもしろかったことを紹介して下さい。

て遊ぼうと、言って帰ったので、それに一日目は最初から実際保育でしたから、まず自由遊びにしました。保育の部屋が真真正で、道具の部屋が目の届かぬ方についたので、道具の部屋の方で遊んでいる子どもは、向こうのお子さんの受持の先生にみていて

村井 部屋一ぱいに動くことが出来ないで、中心に中心にと集まってしまう傾向があつた

専念するということがあまりないらしく、
珍しい道具の上にころを、あよつとづつみ

ので、ピアノの方もあいてますよ、などと言つたりしながら指導しましたが、最後の頃には自由にあいている所を動くようにな

道具はいつも使っているものばかりで

りました。そして、かえって子どもらしいのびのびした表現をしてくれたようです。

半分くらいはその時に新調したもので、す。お茶の水の幼稚園よりもちやはたく

及川　お友達たちの行進や何かをたたみでいるだけの人、あつたかしら？　大体、皆が参加し緊張した様子がなくおもしろそうにや

及川 玩具・先生・場所と三拍子そろつてい

条件にかかるわらずお子さんたちがよく動いて、これでどうぞ」と云ふ。

思ひました

した。

と思いました。私はボール遊びをしようと

第二日 体育的な意図をもつたあそび

子)の指導をする。

子どもたちが“見られている”といううことに幾分馴れてきたことを考えあわせ、予定をたくさん立て、その中から子どもの状態に応じてやることを選択していくことにして、次のように計画をたてた。

1. 登園してきた子どもたちにすぐ自分のすべきなことをえらばせて遊ばせる。(私どもも環境に馴れていないので、この間は会場園の先生がたにも子どもの中に入ってきたらう)

2. この中で私のまわりに集ってきた子どもたちでボール遊びのグループを作り、だんだんに全員をボール遊びにさそう。またマット遊びもする。

3. 今までの経過から、休息の意味を含めてお話しや、子どもと話合いをする。(テーマは次のうたの指導に関連のある雀について)

4. 新しいうた(ちいしばっぱ すずめの

5. 自由あそびをする。(この中でみんなで幼児体操をする)

以上が与えられた九時—十一時半までの大体の計画である。

少し盛りだくさんの気味であるが、対象のお子さんのようにすをのみこむというまでに私の状態がなっていかなかったことから、

前にも述べたように、計画を全部するといふようには考えず、融通のきく予定を立てた。そしてそこから、一日のあり方が幾分でも出るようにもつていったつもりである。

こうした結果について、次に大体のようすをあげてみる。

1. 自由遊びの中からグループを作ろうとし

た働きかけに対し、思ったより参加した人が少なかつたので、みんなでボール遊び、マット遊びを経験するほうが効果があると思ったので、組全体を相手に指導する

4. 自由遊びは時間の関係もあつたが、その中でおこなつた幼児体操の途中であくび

をした人があつたので、精神的身体的疲労や、気温などから考えて無意味と思つたので子どもに同情するあまり幾分早目に切上げて終つた。

(村田)

形にした。はんぱなくボールをとることや、マットの上の横転というやさしい運動であつたが、四十五人が一人ずつするのをあきもしないで、思っていたより以上に興味深く長い時間続けることができた。

2. 前からの都合で、私がお話をする場面はやめて、次の歌への導入として雀についての話合いをして4.に入つた。

3. 簡単な歌詩、やさしい音程なので、二、三回の範唱でいくらかうたえるようになり、次いで拍子をとったり、雀になつて動いてみるとことにより一層うたが身につき、短時間の間に樂しそうに、また正確にうたえるようになった。

4. 自由遊びは時間の関係もあつたが、その中でおこなつた幼児体操の途中であくびをした人があつたので、精神的身体的疲労や、気温などから考えて無意味と思つたので子どもに同情するあまり幾分早目に切上げて終つた。

ブをつくるようにと期待しましたが、四人

ぐらいしか集まらないので、グループはやめにして、部屋の中でボール遊びをするこ

とにしました。また、単純だが、楽しく遊ぶ

ことが出来ることをと思っておりましたので、マットでころがって遊びました。大体冬になつてもできそうなものをしました。

次にお話をしようと考えていたのですが、自由遊び、運動と遊びが長く続きましたからお話をやめて、新しい歌を指導しました。歌を歌うだけでなく、からだ全体でやつた方がよいのだということをわかつていただきかかったのです。

最後に「鳩ボッボの体操をみせてちょうだい」という調子で体操をしましたが、体操の途中であくびをする子どもがいたのでハッときました。この日は九時には部屋の中に入つておりましたから、三時間も同じところにいたからでしょうね。

司会 ボール遊びなどは各自といふより、みんな一しょにやつたのですね。

村田 ひとりずつ誘つても、「いい」、「いい」

というので、一齊にしました。

司会 では次に三日めの先生にお話を伺いましょう。

堀合 計画では絵画製作でしたが絵画製作そ

のものの指導よりも、同じ所で同じ時に遊んでいる人や製作をしている人がいるといふことを観ていただこうと、ここに大きな目標をおきました。もう三日めですから子どもは馴れてきたのですが、朝登園がおそいのです。なぜかと思ったら、疲れて休む子どもが多いらしいのです。でも二、三人欠席しただけで、あと、気むずかしい子どもが母親と一緒にくる程度でした。今日は出だしがあまりよくない、と感じました。

製作をしなければならないので、四つ机を置いて一つの机には画用紙、もう一つにはクレヨンやハサミなどを用意しました。一方外へも出られるようにしておきました。このようにしておきました。このようにしておいて、教師が製作をはじめ、やりたい人がついてくるようにと計画しました。でも、はじめは自由遊びが危くてみていら

れない、というほどの活発な子どもがいたりしてひやひやさせられました。そのうちに女の子どもが製作に加ってきましたが、もう少し女兒を誘つたりして、お魚を書いてもらつて、私も製作しながら子どもをかんとくしたかったのですが、うまくいきませんでした。そうするためには遊具の配置にも注意しなければならないし、また子どもも同志の遊びを充実させておかないと、その上にたつことはむずかしいと思いまして。また、棒でも丸でもよいから「魚」を書いてもらいたいと思ったのに、自分でどんどん製作してくれるのは一人か二人しかなく、まねしても「描けない、描けない」と言うので、どうしてよいか困つてしましました。お魚つりでもすれば他の子どもが誘われてくるかしら——と思いましたが、池が出来て魚を浮かばせると、『釣りたい、釣りたい』の方が多く、そこにばかりついていられない』と思いつながらも、ここが上手にいきませんでした。時間もきましたが、雑然とした状態でしたので、何をしている

第三日 絵画製作

○計画準備

季節も考え、環境もそうかけはなれないし、また作ったもので遊べる材料として

て、『お魚つり』を計画した。

・環境の整備は勿論、遊具の配置、種類も十分考慮しなければいけない。

教師と幼児との関係は言うまでもなく、密接つながりが必要であり、教師と幼児

の指導していくかという事を表示してみたい。特設の保育室には四つの机、数人の椅子、机の上には、クレヨン、画用紙、鉄、他の机には絵本、組木、小さい積木をすぐ使えるように置いた。

材料としての準備は、画用紙、こより、釣竿を用意した。

個人の接触は人格的接觸、お互の信頼と教師の觀察でつながらないと遊びの中の指導、すなわち個人適切な指導はむずかしい。

幼児のもてる表現を年令なりに引だすには日常、自分から下手でも表現するといふ意欲を養つておかなければならない。

一日で仕事を完成させるととはおとなのは計画で幼児の生活を阻止してしまうことに

みていただけだと、細い指導よりも大きい面に目標をおいた。

そこで、幼児の活動を十分にさせ、その中へ教師の計画を持込み興味のある幼児より誘導し、それを次第に発展させていくのが、勿論未知の幼児と時間の制限があるので、内容は絵画製作でもその指導と

○指導後の感想

環境 幼児と先生などの関係でこまかい

点は勿論、目的は達せられず、一日の結果というものはえられなかつたが、大きい点で感じたことは、

・幼児の自分の生活を十分生活し、友だちをしてくれて、興味のある幼児は参加してくれ、勿論、短時間だから、数人の幼児の製作活動で、その出来たもので遊んでくれればよいと考えていた。

同志ともよく遊べ、その生活に教師も幼児も共に安定感を持つて生活しないとその上に立つ指導はなかなかできない。またこの形態におく一つの段階として幼児が安定感を持つて友だち同志とよく遊ぶことが必要

以上大まかに強く感じ反省したことでしがたが幼児というものは私共の園も北海道の幼児もちつともかわらない。こんなことはあたり前のことだがうれしかった。(堀合)

んだか、というようにみえたでしょうが、本当に初歩の初歩の、まとめていくだけで指導が出来る、とうところをみていただいたらしいのじやないか、と思いました。

司会 なかなかたいへんでしたね。

堀合 私は、はじめてだから入園当初の子どもをもつたと思えばよい、と考え、その半面五才児といえば魚つりが出来るのじやないか、と思ったのです。そこのくい違いから無理が生じたのだと考えさせられました。

三才四才の何も出来ない子どもを思えばよかつたが、魚が描けるかしら、と思ったので、なおいけなかつたかもしません。

及川 三人の先生の共通点は、遊んでいる中

全部の子どもがついていかないまでも、ついていく線がみられたということでしょう。新しい違う土地の教師に背中を向けるような態度をとらなかつたですね。先生のもつていきかたで子どもはついていくもの

だという保育の可能性をみることができたと思いました。

堀合 実際に保育している間に、どこの土地の子どもも同じだと思いました。

司会 先生たちみな、この幼稚園以外では今まで保育されたことはなかつたですか？

及川 ほんと。しかし子どもが違つてももてる力があるのですね。そう思いました。でもこれからたびたびしていただこうとは思いません。

一日のうちでも、最初と終りとではずいぶん様子が違つたでしょう？

堀合 遊具を私はわざとバラバラにして、どこから、リズムなり製作なりにもつていくことで、それはふだんその幼稚園で遊んでくれる先生のいきかたと違つても、たとえ

村井 リズムは、大体先生が指導し、先生が表現をとり、子どもがそれをまねするのが一般的やり方だと思いましたから、そのワクを外そうと思いました。それがかえつて子どもの興味をひいたようですね。

司会 この付属では、よく他のかたから違う保育室で四十何人いる場合、こういう保育はできるか、と批判されますが、できる自信ができましたか。

及川 それはみていた方から言うことでよいですね。確信出来ますよ。ある園長さんが

「あなたたちが園に帰つてこういう保育のやり方ができると思つたらまちがいだ。北海道ではやれないんだ」と言わされました。

それを聞いていた先生がたが「何て意外なことを言う人だろう。やれば出来ないことはないのに」という顔をなさつたので、とてもたのもしく思われました。

一部の監督者を除いて、実際保育にたずさわっている先生たちは、研究してみようという意欲をたいへん持つていらっしゃる様子がうかがわれました。保育技術は場を変えても変わらないのだということをつくづく感じました。また、この際、というよう運動具や玩具を整えたので、ずいぶんありましたよ。

司会 こんな思いきった経験は新開地の発展途上にある北海道だからこそ出来たのでし

よね。

村田 午後の協議会は困りました。紙に書かれた問題の全部に解答するのですが、返事に困るようなものばかりなんです。例えば、くせの悪い子どもはどうしたらよいのでしよう? という具合でしたから。

司会 また頼まれたらやるに値すると思われますか?

及川 私どもの幼稚園に参観に来られた人は、ここではいつもやられているからこういう保育が出来るのだと思います。しかししそうではありませんから、ここのお先生

たちの迷惑を考えなければ価値あるものだ

と思うのです。園長会でも、研究会は実際保育の場がないと寒がないと言われておりますよ。ただあの時、客つまり参会の先生がたのためによい部屋がとってあつたので、

子どもたちは父兄と一緒に納戸のようないところに一時間半もおしこまれる結果になつてしましました。これは今後気をつけなければならぬと考えさせられました。

司会 それでは興味深いお話をありがとうございます。ふだん接していない子ども

に、突然実際保育をしてみせるということ

は、なさる先生方にとってはたいへん困難なものにもかかわらず、お話をうかがうと

立派に所期の目的を達せられたようです。それには現地の方々のこまかい配慮と御協力があつたためとお察しします。このよう

な実際保育の展示は、うつかり不用意にやるとうまくいかなかつたりするでしょが、担当された先生方も、現地の準備をなされた方々もそのような困難をよく克服されたと感心いたしました。

*

*

*

保育実際指導における感想

荒木 弥生

今夏の、全道私立幼稚園研修大会は、北海道にとって画期的なことでございました。しかも私共の園児によって保育の実際指導が三

日間にわたってなされるというので、大きな期待と抱負を持って全道より三百余名の先生方が集つて参りました。ただこのような形態

の研修会は初めてであり、主催者側の不慣れなため、不行届きの点が多くあつたと思われますが、とにかく、参加者一同が多大の収穫を得、また種々反省と保育に対する奪起の機会となつたことは誠に幸いであったと思ひます。二日や三日で保育の実態を掴み、あるいは評価するということは、とてもむずかしいことだと思いますが、自由保育のあり方、誘導保育の流れを目のあたり見せていただき二、三感じたことを述べさせていただきます。